

第1回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会 会議要旨

開催日時：令和8年6月18日（木） 15:00～16:30

開催場所：周南市シビック交流センター2階 交流室1

主催者：周南市教育委員会 学校教育課

参加者：周南公立大学地域共創センター副センター長、小・中学校長会長、公立学校教頭会代表、地域連携担当教職員研修会企画委員会代表者、学校運営協議会会長、PTA連合会代表、地域学校協働活動推進員代表、周南市役所関係各課担当者

1 開会行事

主催者あいさつ（周南市教育委員会学校教育課主幹）

2 学校教育課所管説明

（1）今年度の取組

- ・令和8年度の地域連携の方向性（育てたい子ども像や3つの柱（地域学習・キャリア教育・主体性を育む活動）について
- ・令和7年度の取組について
- ・コミュニティ・スクールに関するアンケート調査について

（2）昨年度からの課題

- ・子どもにとって地域と連携することはどのような意味をもつのか、また、子ども自身がこの取組をどう受け止め、どう評価しているのかを考える機会を設けていく。

3 グループ協議

（1）協議内容

子どもたちが、地域連携の取組に、どのようなことを考えているか、その声を受け止め、私たち（地域住民、保護者、教職員）にできることを考える

（2）グループからの意見

- ・大人がアドバイスをするのではなく、まずは「聞く姿勢」をもち、子どもの目線にあわせて対話する
- ・子どもの世界に（推し活等）に歩み寄って質問し、つながりを作る
- ・抽象的ではなく、「あなたのここが良かった」と具体的に褒める
- ・地域の人からの感謝のメッセージを校内に掲示するなど、言葉を形にする
- ・大人が地域活動や仕事を楽しんでいる姿を見せることが大事
- ・地域の清掃活動など、小さな取り組みでも意味付けを行い、達成感を味わえるように設定する
- ・地区の行事の企画会議に、子どもと一緒に考える
- ・実際、働く大人を見ても遠い存在に感じてしまうため、将来像を描ける様な取組をしてはどうか

- ・いろいろなこと（やったことのないこと）をやらせてみる。できないことができるようになり、それを大人が褒める。
- ・いろいろな人と合えるような機会を増やす
- ・大人がユニークなアイデアを話して、話しやすい雰囲気をつくる

4 講評：山口県教育庁 地域連携教育推進課 社会教育主事 石飛 亨 様

- ・県においても、「やまぐち PRIDE の醸成」に向け、地域と家庭が連携した取り組みを進めている
- ・たくさん出た意見の中で、大人はどうしても先走って結論を出したり、意見を誘導したりしがちになるが、子どもが黙って考えている時間を待ち、その声を大切にするという意見が印象に残った
- ・協議会で出た意見や学びをただの話し合いで終わらせず、学校運営協議会などを通じて実際の学校現場へ落とし込み、地域や学校全体で同じ思いを共有して広げてほしい

講評：徳山エリアCSチーフ 長谷川 敬 様

- ・前年の会議で出た課題に対し、今年は子どもたちにアンケートをもとにグループ協議を設定するなど、改善が見られて良かった。これまでの取り組みをベースにしながら、毎年少しずつ内容をアップデートさせてほしい
- ・地域の人に話を聞いてもらったり、感謝されたりする経験の積み重ねが「こんな大人になりたい」という将来の姿につながっていく
- ・子どもたちにとって「いつ、どこで、だれと関わっていくか」が非常に重要であり、地域や学校の中にある「学び続ける素敵な大人」が、子どもたちにとっての素晴らしいロールモデルになる

5 閉会行事

周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ

～周南公立大学 地域共創センター 副センター長 立部 文崇 様～

- ・大人が「伝えたい・感じてほしい」と思っていることと、子どもたちの実際の受け取り方に「ズレ」があり、もし伝わっていないのであれば取り組みを改善するチャンスであり、この結果を基に「次はどれからやっていくか」という優先順位をみんなで考えていくことができる
- ・こちら側の思い込みだけでなく「子どもや若者がどう受け取ったか」を真摯に考えることこそが、今後の地域連携をより良く進めていくことにつながる